

編集部が 聞いてみました!

2021年に「北海道子どもの生活実態調査」が実施されました。調査は北海道内の約3万人の親子を対象として行われました。今回は、この調査を共同で行い、子どもの貧困など教育福祉を研究する専門家に調査結果についてお話をうかがいました。

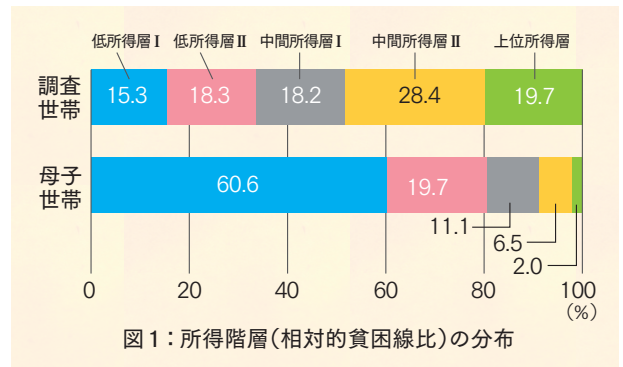


北海道大学大学院教育学研究院附属
子ども発達臨床研究センター
松本 伊智朗先生

Q1. 北海道における子育て中の家庭の経済的な状況を教えてください。

全体的に、所得格差がある中で子育てが行われていることが調査から示されています。図1は、この調査全体における各所得階層の占める割合を示しています。

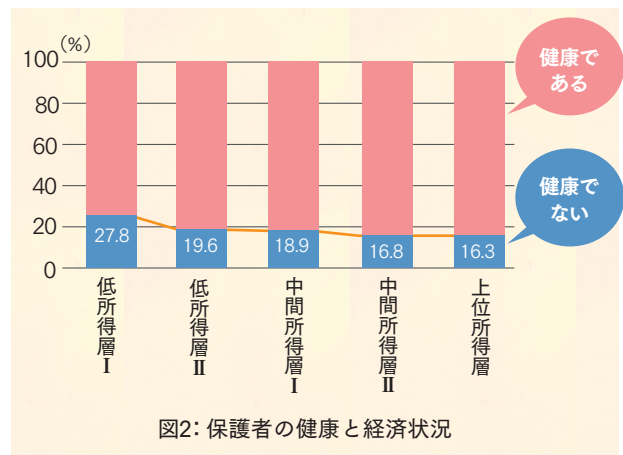
「低所得層Ⅰ」は、厚生労働省が貧困率の推計を行う際に用いる基準を下回る(1.0倍未満)所得水準に該当します。今回の調査対象集団の中での割合が15.3%と、少なくないことがわかります。そして、世帯のタイプにも注目してみると、母子世帯では「低所得層Ⅰ」が大半を占めており、経済的に厳しい状況に置かれていることがうかがえます。



Q2. 経済的に苦しい状況だと健康にも良くない影響があるのでしょうか?

この調査から、所得(が低いこと)と健康(でないこと)の間には関連があるようです。図2に示す通り、所得が低いほど、「健康である」と答えた割合が低く、そうではない人(「通院している」人や「通院していないが体調が悪い」人)の割合が多いことがわかりました。

また、「健康でない」保護者のうち、所得が低い層ほど、必要な医療受診を控えた経験のある人の割合が多いこともわかりました(ただし、子どもの医療受診については保護者ほどはっきりした差がなく、子どもの受診を優先していると推測されました)。経済的に苦しい世帯の子どもの心身の健康と、その健康を守っている保護者自身の健康を、社会全体で守る必要があります。



Q3. 困難を抱えている家庭の支援にはどのようなものがありますか?

北海道では、「相談」「教育」「生活」「保護者の就労」「経済」の5つの柱にそって子どもの貧困対策を進めています。道のホームページで子育てに関する相談窓口やいろいろな支援制度についてお知らせしています(*1)。また、家族や家庭について悩んだときに保護者もお子さんも気軽に相談できるよう、LINEを活用した相談窓口「親子のための相談LINE」(*2)が開設されました。さらに、札幌市は独自に「さっぽろ子育てAIチャットボット」(*3)を導入し、子育て情報に関する質問に対して適切な情報を提供しています。



*1 北海道保健福祉部
子ども政策局



*2 親子のための
相談LINE



*3 さっぽろ子育て
AIチャットボット



調査結果をまとめた
リーフレット
「北海道・札幌市のこどもと
家族の生活(2023年2月)」を
こちらからご覧いただけます。



そのほかの主な相談窓口

旭川市子ども総合
相談センター



・児童相談所虐待対応ダイヤル
TEL:189(24時間365日、通話料無料)
・札幌市子どもの安心ホットライン
TEL:011-622-0010(24時間365日)